

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
北海道ハイテクノロジー専門学校		昭和62年12月4日	塩野 寛		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番1 (電話) 0123-36-8119			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人産業技術学園		昭和63年1月5日	宮川 藤一郎		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番 (電話) 0123-36-8119			
目的	救急医療に携わる者として、傷病者とその家族等救急現場に関わる人々や医師・看護師等のメディカルスタッフの立場を理解し、医療知識・技術を備えた人間性豊かな救急救命士を育成する							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
医療	医療専門課程		救急救命士学科		平成6年文部科学大臣 告示84号		-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	115	75	2	38	0	0	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
300 人の内数		301 人の内数		7 人の内数		45 人の内数		52 人の内数
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 単位認定試験(本試験、再試験)(実技試験含む) A:優、B:良、C:可、D:不可			
長期休み	■学年始:4月5日 ■夏季:7月17日～8月15日 ■冬季:12月18日～1月17日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	学年単位取得及び卒業の認定は、本校の教育課程に定める各学年における全ての各学科科目の単位を修得したとき、学校長が行う。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 連続3日以上のお休みは教務部長報告・面談			課外活動	■課外活動の種類 地域への救急法講習会の実施 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 消防本部 ■就職率 ^{※1} 69:69 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 108:69 64 % ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	救急救命士			
中途退学の現状	■中途退学者 2名(他9名転科) ■中退率 0.6 % 平成27年4月1日時点において、在学者314名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者303名(平成28年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振、進路変更(転校・転科) ■中退防止のための取組 入学前教育の強化、不本意入学の阻止、低学力者への補講、スクールカウンセラーとの面談							
ホームページ	https://www.hht.ac.jp/							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、教育課程の編成において医療・消防組織の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための連携体制等を行う機関として活動し、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業教育を行うことを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
奥山 恒夫	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
八木 康之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 北海道センター所長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
西村 浩樹	株式会社ホクドー営業部 部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
前仲 勝実	北海道大学大学院薬学研究院 生体分子機能学研究室 教授	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
菅原 直臣	NPO法人北広島ITネットワーク 理事長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
藤浦 将輝	株式会社ナスカコンピュータ システムエンジニア	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
前田 元照	札幌市私立幼稚園連合会 会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
若林 尚子	恵庭市なのはな保育園 園長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
清水 敏博	医療法人社団慶心会介護付き有料老人ホーム ラ・デュース恵み野 施設長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
石本 良之	一般社団法人 医療秘書教育全国協議会 事務局長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
藤本 尚之	医療法人社団 尾形病院 事務長	2016.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
足立 晋	医療法人北農会 恵み野病院 事務長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
大橋 由美子	公益社団法人 北海道看護協会 札幌第三支部長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
佐藤 真理	医療法人北農会 恵み野病院 看護部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
蔵重 勉	特定医療法人 修道会 本日記念病院 看護部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
太田 宗夫	一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会 代表理事	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
高橋 順一郎	医療法人社団 愛心館 理事長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
瀧川 裕子	一般社団法人 北海道歯科衛生士会 副会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
尾島 玲子	医療法人社団 尾島歯科医院 理事	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
中川 喬	北海道公立大学法人札幌医科大学 名誉教授	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
畑中 孝輔	日本赤十字社 北見赤十字病院 眼科検査課 課長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
安田 義幸	株式会社 馬場義肢製作所 代表取締役	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
柏崎 カネ	有限会社 三愛義肢製作所 代表取締役	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
相馬 充晴	一般社団法人 日本義肢協会 北海道支部長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
真下 泰	公益社団法人 日本臨床工学技士会 副会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院 臨床工学技士 主任	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:2回 開催時期:7月および2月

(開催日時)

平成28年2月6日 17:00～20:00 京王プラザホテル札幌

平成28年7月9日 18:00～21:00 京王プラザホテル札幌

平成29年2月4日 17:00～20:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

今日の、企業や業界団体等の求めているところ、当学科の改善事項等の意見・評価を頂き、改善計画を策定し、カリキュラムに反映させるなど、教育課程の編成を考え、教育の質の向上に活用している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

将来救急医療に携わる者として、傷病者とその家族など救急現場に関わる人々の立場を理解する。また、保険・医療・福祉チームの一員としての自覚を持ち、医療知識・技術を日々研鑽し、提供できる人間性豊かな救急救命士を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

臨地実習および学内実習

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	医療機関において、救急救命士の行う業務について、見学を中心に実践的な知識・技術と接遇を身につける。	市立室蘭総合病院 金沢医科大学病院 倉敷中央病院
救急用自動車同乗実習	各消防本部で実際に救急車に同乗し救急処置の実践的な知識・技術と接遇を身につける。	恵庭市消防本部 千歳市消防本部 北広島市消防本部

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

一般社団法人全国救急救命士教育施設協議会で会員校の教員資質の担保を目的に教員認定の更新制度が発足した。更新のための関係学会・シンポジウムの参加の義務等、条件を満たす必要がための関係学会には積極的に参加する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成27年7月23日 平成27年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会（札幌市） 1名
 平成27年8月5日～6日 一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会総会・講演会・教員研修（銚子市） 3名
 平成27年12月18日 平成27年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会（札幌市） 1名
 平成28年7月22日 平成28年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会（札幌市） 1名
 平成28年8月4日～5日 一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会総会・講演会・教員研修（上田市） 3名

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成27年5月30日 第26回北海道救急医学会救急隊員部会（苫小牧市） 5名
 平成27年8月3日～8月7日 平成27年度救急救命士養成所専任教員講習会（東京） 1名
 平成27年8月24日 平成27年度 JESC教育部会第2回救急救命分科会（東京） 1名
 平成27年10月24日 第1回日本救護救急学会学術集会（東京） 1名
 平成27年11月7日 第39回北海道救急医学会学術集会参加（札幌） 2名
 平成27年12月3日 第24回全国救急隊員シンポジウム（札幌市） 3名
 平成28年2月15日～16日 平成27年度JESC教育部会第3回救急救命分科会および救急講習会プロジェクト会議（三田市） 1名
 平成28年5月16日～17日 平成28年度JESC教育部会第1回救急救命分科会および救急コーディネーター講習（福岡市） 2名
 平成28年5月28日 第27回北海道救急医学会救急隊員部会 総会・研修会（千歳市） 4名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年7月22日 平成28年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会（札幌市） 1名
 平成28年8月4日～5日 一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会総会・講演会・教員研修（上田市） 3名
 平成28年12月 平成28年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会（札幌市） 1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年5月16日～17日 平成28年度JESC教育部会第1回救急救命分科会および救急コーディネーター講習（福岡市） 2名
 平成28年5月28日 第27回北海道救急医学会救急隊員部会 総会・研修会（千歳市） 4名
 平成28年8月15日～19日 平成28年度救急救命士養成所専任教員講習会（東京） 1名
 平成28年8月23日～24日 平成28年度JESC教育部会第2回救急救命分科会および救急コーディネーター講習（大阪市） 1名
 平成28年11月19日～20日 第2回日本救護救急学会学術集会（東京） 1名
 平成28年10月22日 第40回北海道救急医学会学術集会（帯広市） 1名
 平成29年1月26日～27日 第25回全国救急隊員シンポジウム（神戸市） 1名
 平成29年2月 平成28年度JESC教育部会第3回救急救命分科会および救急コーディネーター講習（東京） 1名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校法人産業技術学園が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	2-4運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか
(3)教育活動	3-10各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の
(4)学修成果	4-19就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が
(5)学生支援	5-23就職に関する体制は整備されているか
(6)教育環境	6-31施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-34学生募集活動は適正に行われているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	9-42法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-46学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
(11)国際交流	11-48グローバル人材の育成に向けた国際交流などの

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議(定例会毎週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善に実施している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院	2015.9月～	卒業生
野 清美	動物科学科保護者	2015.9月～ 2017.8月	保護者
大場 真哉	帯広大谷高等学校	2015.9月～ 2017.8月	高等学校
早坂 貴敏	恵庭市市議会議員	2015.9月～ 2017.8月	近隣関係
奥山 恒夫	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク	2015.9月～ 2017.8月	企業等委員
足立 晋	医療法人北農会 恵み野病院	2015.9月～ 2017.8月	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm00027340.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

HP <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 救急救命士学科 平成28年度)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			シミュレーション実習Ⅰ (基礎手技)	実技及び知識の向上及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。	1・通	180	4			○	○		○	○	
○			生命/医学倫理	市民社会の成立、生命の尊厳、社会規範、宗教哲学等生命倫理をめぐる基本問題を学ぶ。	1・前	16	1	○			○				○
○			医学概論	医学の本質、医学の発達、医療従事者の倫理などを学ぶ。	1・前	16	1	○			○				○
○			法医学	法律上の問題となる医学的事項を中心に学ぶ。	1・後	16	1	○			○				○
○			体育Ⅰ	体力を增強し、健全な身体の発達を図れるよう学ぶ。	1・通	120	4			○	○				○
○			体育Ⅱ	体力を增強し、健全な身体の発達を図れるよう学ぶ。	2・通	120	4			○	○				○
○			体育Ⅲ	体力を增強し、健全な身体の発達を図れるよう学ぶ。	3・通	120	4			○	○				○
○			法学	現代法を中心に、基本権の構造及び市民生活にかかわる法律的諸問題を学ぶ。	1・前	16	1	○			○				○
○			社会保障・社会福祉	社会福祉と医療、社会保障の関連について学ぶ。	1・後	16	1	○			○				○
○			解剖学・生理学	人体の構造と機能を中心とした基本的内容を学ぶ。	1・前	120	8	○			○				○
○			生化学	生体を構成する物質の構造と機能、生体内での代謝や疾病時の変化などについて基本的事項を学ぶ。	1・前	16	1	○			○				○

○			薬剤投与	心肺停止傷病者の病態に応じて薬剤投与を的確に施行する知識を身につける。また薬剤投与に伴う危険認識、人体の影響を学ぶ。	2・前	16	1	○					○				○
○			観察	救急医療における所見の把握・検査・処置方法・救急医療体制などを中心に学ぶ。	2・前	30	2	○					○				○
○			消化器官	消化器の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。	2・前	30	2	○					○				○
○			免疫/代謝/炎症	免疫不全や代謝異常炎症の病態生理と救急法を学ぶ。	2・前	16	1	○					○				○
○			体液管理	血液・体液の解剖生理と主な疾患の症状、救急処置などを中心に学ぶ。	2・前	16	1	○					○				○
○			骨盤四肢外傷	骨盤・四肢の外傷や運動器の生理と主な疾患を学ぶ。	2・前	16	1	○					○				○
○			顔面外傷	顔面外傷の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置法を中心に学ぶ。	2・前	16	1	○					○				○
○			心肺停止	心肺停止の判断や病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2・前	30	2	○					○				○
○			救急医学総括	病院前救急医療の基本・日常の救急医療の中から生じる疑問や問題を総括的に学ぶ。	3・通	90	6	○					○				○
○			泌尿器・生殖器	泌尿生殖器の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。	2・前	16	1	○					○				○
○			痙攣・脳圧亢進	痙攣・脳圧亢進の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2・前	16	1	○					○				○
○			熱傷・電撃症	熱傷・電撃傷の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2・後	16	1	○					○				○
○			高齢者疾患	高齢疾患の特殊性と救急処置法などを中心に学ぶ。	2・後	16	1	○					○				○
○			産婦人科疾患・周産期疾患	産婦人科疾患、周産期疾患の特殊性と救急処置などを中心に学ぶ。	2・後	16	1	○					○				○

○		一般知能・一般知識	公務員試験の弱点を克服し、応用力を身につける。	1・通	90	6	○			○					○
○		シミュレーション 実習Ⅲ (気管挿管・薬剤投与・血糖測定・総合実習)	実技及び知識の向上及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。	3・通	405	9			○	○				○	
合計			54科目	2749単位時間(115単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。